

「底が突き抜けた」時代の歩き方⁴⁶⁷

年表から飛び出してくる 1968年 - 1969年

1969年

●**ヤマザキ、天皇を撃て！** 1月2日、午前10時頃、約1万5千人の一般参賀の人々を前にして新宮殿長和殿のバルコニーに現れた天皇に、奥崎謙三（48）がバルコニー前方約15mのところから「ヤマザキ、天皇を撃て！」と叫んで、手製のゴムパチンコでパチンコ玉3個を立て続けに天皇めがけて撃つ。いずれの玉もバルコニーのすそかくしに当たっただけ。彼はその場で自首し、逮捕。奥崎は20年明石市に生まれ、40年召集、工兵に配属、中国に、そして独立工兵第36連隊の一員として43年4月ニュージーニアに送られ、そこでの過酷な敗走体験が今回の行動の発端となった。呼びかけたヤマザキとは、奥崎と共に岡山から九江工兵隊に入隊した山崎上等兵であり、マラリアに侵され行軍から落伍した同期の柏木一等兵を是が非でも祖国へ連れ帰ろうと衰弱しきった体で連れ戻しに行くような人であった。柏木一等兵はその友情に感謝するあまり、自ら姿を隠してしまう。奥崎はそんな彼らと行動を共にしてきたのである。復員後奥崎が見たものは、「戦争であれほど多くの尊い人命を犠牲にしておきながら、本質的には昔とほとんど変わらない社会」であり、「超A級の戦争犯罪人である天皇が、あいもかわらず大きな顔で日本国民の象徴として認められ」ている現実であった。それに対し、「飢えて死んでいった多くの戦友たちや無数の戦争犠牲者のことを考え、いつもがまんがならない激しい怒りを燃やしていました」と陳述書に書いている。

70年6月8日、懲役1年6カ月の判決。10月7日、東京高裁で刑期は同じだが、未決勾留日数を刑期に入れて刑の執行が不要に。71年4月1日、最高裁、上告棄却。

東大闘争 1月9日、越年の構内で民青系と全共闘乱闘、重軽傷100人余。加藤総長代行、機動隊出動要請し、52人逮捕。

10日、秩父宮ラグビー場で7学部集会（民青系）、大学側と10項目確認書。

11日、駒場教養学部代議員大会でスト解除可決。農・理・教育学部もスト解除。日共系学生、武装し、本郷制圧。

12日、全共闘、法学部研究室・列品館・法経各校舎を再封鎖、非常食貯蔵開始。

13日、薬学部学生大会でスト解除。

14日、加藤総長代行「警察力による封鎖解除も辞さぬ態度で入試を実施する」と言明。

15日、全共闘、全国労農学総決起集会開催。

17日、加藤代行、入試のための機動隊出動要請。

18日、早朝7時、機動隊8500人出動。午前8時前、三四郎池に薄氷が張り詰める寒さのなか、機動隊は「実力排除を開始します」と警告し、バリケード撤去開始。工学部列品館や医学部中央館、法学部研究室などに対してガス銃の一斉射撃、放水を繰り返し、学生も投石や火炎ビン、手製の火炎放射器などで激しく応戦したが、昼ごろまでに封鎖解除。午後3時、機動隊、全共闘主力が立て籠もる安田講堂に突入。4機のヘリコプターが安田講堂に催涙弾を投下し、周辺は鼻をつく白い霧に覆われ、講堂は滝のような放水を浴び、学生側も投石と火炎ビンで頑強に抵抗。256人逮捕、失明・口蓋破裂の重傷者のほか負傷者多数。この攻防戦が続いている頃、神田駿河台周辺では反戦青年委、中大、日大、明大などの学生2千人が、パリ5月革命になったカルチェ・ラタン闘争を展開。

19日、前日に続き安田講堂攻防戦。機動隊が講堂最上階の時計台に達し、午後5時45分、学生全員排除。「解放講堂」からの「時計台放送」は、「我々の闘いは勝利だった。全国の学生、市民、労働者の皆さん、我々の闘いはけっして終わったのではなく、我々に代わって闘う同志の諸君が再び解放講堂から時計台放送を行う日まで、この放送を中止します」と最後のメッセージを流し、インターナショナル合唱、肩を抱き合って逮捕された。学生375人逮捕。この「安田砦」攻防戦は全国にテレビ中継され、人々に大きな衝撃を与えた。

一方、神田駿河台の学生街では、日大、中大、明大など東大闘争支援の学生が無届けデモを繰り返し、大学から持ち出したイスや机、横倒しにした路上の車などでバリケードを築き、機動隊との間で市街戦を展開。御茶ノ水駅前ほか4カ所の道路を二日間にわたりバリケード封鎖し、「解放区」とした。

20日、山本義隆全共闘議長に逮捕状。文部省との会談で東大入試中止決定。

30日、当局は全共闘を器物損壊罪で本富士署に告訴（被害総額4億2千万円）。

3月24日、教養学部で授業再開。

京大闘争 1月16日、京大全寮闘争委、三項目要求で総長団交が決裂し、学生部封鎖

23日、学校側が日共系職員・学生にヘルメットを配り、封鎖解除。

27日、反日共系京大全共闘委と奥田総長の丸二昼夜の団交決裂。

2月3日、文学部長団交決裂、無期限スト突入、教養部後期試験延期。

5日、理学部スト突入

14日、未明から反日共系と日共系衝突、200人以上の負傷者。京都府警、「今後は独自に機動隊入れる」方針。26日、全共闘、本部突入、時計台封鎖。

3月1日、入試粉碎労学総決起集会、東山通で街頭バリケード戦。

2日、大学側の要請なしに機動隊出動。3日、国立1期校、機動隊の戒厳下で入試実施。

5月14日、京大全共闘、医学部構内封鎖。15日、学生部再封鎖。22日、本部封鎖。

23日、機動隊導入、本部封鎖解除。

9月20日、京大全学封鎖。今出川通・百万遍交差点・東山通バリケード闘争。

22日、46時間の徹底抗戦の末、京大時計台砦解除。

日大闘争 2月1日、日大教職員組合の三幹部解雇。2日、工学部、ヘルメットを被った学部長の指揮でバリケード撤去。4日、法・経に機動隊導入、校舎ロックアウト。

11日、日大全共闘、5万人集会。18日、文理学部に機動隊導入。8ヵ月ぶりで全面封鎖解除。2月、入試実施。3月12日、日大全共闘議長秋田明大を逮捕。

北海道大学 - 学内に大型道路が走る計画に反対

北海道教育大学 - 道教委の教員採用試験に全員採用を要求

室蘭工業大学 - 寮建設に際して学生が自主運営を要求

北見工業大学 - 寮の運営に学生の自主性を入れると要求

秋田大学 - 教育学部長の就任反対

東北大学 - 寮新設問題

山梨大学 - 学生会館管理、運営問題

福島大学 - 学長選挙方法、教員採用数増加要求

福島医科大学 - 学長選挙方法の民主化

新潟大学 - 教養部の統合、移転に学生が反対

山形大学 - 大学会館の運営問題

岩手大学 - 学生食堂の管理、運営問題

横浜国立大学 - 校舎の統合、移転問題

神奈川大学 - 2300万円の使途不明金問題

東京工業大学 - 寮の自主管理と寮規則の撤廃要求

東京教育大学 - 筑波山麓への移転問題

東京外国語大学 - 学生寮の設立とその管理運営問題

中央大学 - 学費値上げ反対、常置委撤廃要求

芝浦工業大学 - 学費値上げ問題

東洋大学 - 学生会館建設と管理運営問題

慶應義塾大学 - 医学部に対する米軍資金援助反対

明治学院大学 - 学生の政治活動制限の緩和

青山学院大学 - 自治会成立と学園民主化要求

上智大学 - 学園民主化、処分問題

関東学院大学 - 学長選挙問題と寮の新設要求

電気通信大学 - 食堂経費の赤字負担問題

学習院大学 - 天皇誕生日の登校反対、校規・学則改善反対と大学立法反対

静岡大学 - 静大短大の校舎移転問題

名古屋工業大学 - 不正入試事件の真相追及

愛知教育大学	- 校舎の移転、統合問題
名古屋大学	- 小児科教授選考問題
愛知大学	- 自治会執行部の主導権争い
愛知学院大学	- 学友会選挙の主導権争い
南山大学	- 入学金値上げ問題
名城大学	- 自治会の主導権争い
大阪大学	- 中核派学生の処分問題
大阪教育大学	- 主事公選問題
大阪市立大学	- 医学部民主化要求
大阪外国語大学	- 校舎の移転問題
神戸大学	- 大学寮の民主化要求
立命館大学	- 寮の自主管理、舎監制度全廃要求
滋賀大学	- 経済学部民主化要求
関西大学	- 社会学部民主化要求
大阪医科大学	- 小児科教授の選任問題
関西学院大学	- 学費値上げ反対
桃山学院大学	- 学生会館運営問題
近畿大学	- 機構改革
富山大学	- 経済学部教授会の人事問題など
金沢大学	- 入寮者の選考問題
岡山大学	- デモ参加で逮捕された学生問題
大分大学	- 学生会館と寮の管理運営問題
九州大学	- 米軍墜落機引き下ろし問題
九州工業大学	- 生協認可、寮運営問題
長崎大学	- 学生会館の自主管理要求
熊本大学	- 生協の赤字補てんをめぐる問題

この年、以上の大学で闘争が展開されていたが、明治大学や同志社大学のように、闘争が日常的に展開されている大学があり、上記の大学以外に大半の大学で闘争中であったことを付記しておく。

ＰＬＯ議長にアラファト就任 ２月４日、パレスチナ解放機構（ＰＬＯ）の国会に相当する第５回パレスチナ民族評議会（ＰＮＣ）が、反イスラエル・ゲリラ組織の指導者ヤセル・アラファト（４０）をＰＬＯ新議長に選出。

２月６日、カリフォルニア州知事レーガン、学園闘争中のパークレー校に「非常事態宣言」を発する。

３月１６日、ベトナム反戦の「反徴兵週間」行動が開始され、全米各地で一週間続く。

5月1日、ニクソン大統領（56）が、ベトナム戦争解決のために軍隊の同時撤退などを含む8項目のベトナム和平提案を行う。

6月8日、ニクソン、南ベトナム大統領グエン・ヴァン・ティエウ（46）と会談し、米軍2万5千人の南ベトナムからの撤退発表。

6月27日、NYのゲイバー手入れに怒った同性愛者がストーンウォール暴動。

7月8日、南ベトナム派遣米軍第1陣撤退。

20日、**アポロ11号月面着陸、人類初めて月に立つ**。午後4時17分（米東部夏時間）、ニール・アームストロング船長（39）とエヴウィン・オルドリン大佐（39）を乗せた、アメリカの宇宙船アポロ11号の月着陸船イーグルが、「静かの海」と名づけられた平原に着陸。午後10時56分、アームストロングはイーグルを出てゆっくりと月面に降り立ち、「人には小さな一歩であり、人類には巨大な一歩だ」と伝えてきた。19分後、オルドリンも月面に立ち、二人は記念の銘板や観測機器を設置し、米国旗を立てて写真を撮り、月の土と岩を採集して予定の任務をすべて終了。その間、約2時間半で多くの米国民がこの成功に酔っているとき、黒人解放運動の指導者ジェシー・ジャクソン（28）は、「この国が気高い意志を損なっているとき、科学技術にうぬぼれ、威張り、自慢することができるのか」と批判。翌21日、イーグルは月面を離陸し、マイケル・コリンズ中佐（38）の待つ母船とドッキング、22日に地球へと向かい、24日、太平洋中部に無事着水し、3人の119時間18分に及ぶ宇宙の旅は終わる。

8月15日、**ウッドストック野外ロックフェスティバル開催**。ニューヨーク市の北西約110kmのベゼル近郊の農場で、17日までの3日間、15～25歳までの若者が連日30万～40万人も詰めかけ、夕立で泥まみれになりながらも混乱もなく、広い会場は愛と平和に包まれていた。参加したミュージシャンは、ジェファソン・エアプレーン、ザ・バンド、ジミ・ヘンドリクス、ジャニス・ジョプリン、ジョー・コッカー、ジョーン・バエズなど、ロックだけでなくフォークの歌手も含まれ、ロックのビートは大地に鳴り響き、観衆は熱狂したが、屋根もない農場で数夜を共に過ごした彼らは落ち着いた連帯を求めた。ウッドストックはベトナム戦争が泥沼化するなかで、既存の価値観が揺らぐ不安定な時代を生きた若者たちのカウンターカルチャーの頂点を示すイベントとなる。

10月15日、全米でベトナム戦争反対デモ。

11月20日、アメリカ・インディアン89人が、サンフランシスコ湾のアルカトラス島を占拠、「インディアン対策の改善」などを要求して一年半立て籠もる。

高校卒業式の造反有理 2月25日、大阪府下の茨木、阪南の両高校の反日共系の高校生らが、卒業式の自主運営や処分撤回をめぐって卒業式場や職員室をバリケード封鎖、占拠。このため茨木高校では各教室で校内放送での卒業式を、阪南高校は後日に延期。東淀川高校でも学校のお仕着せ答辞に反対する生徒側が独自の答辞を読み上げる二人答辞となり混乱。

3月13日、都立武蔵丘高校卒業式にゲバ棒、ヘルメット姿の高校生30人が乱入、機動隊が出動するなどして式は中止、逮捕者3人。この日までの高校の卒業式騒ぎは、21都道府県56校に。(28日、都立武蔵丘高校は、事件を起こした生徒5人を停学処分にする。)

14日、都立九段高校の卒業式で卒業生約38人が「集会を開かせろ」と騒ぎ、式が中断、式の続行を主張する生徒との間に殴り合い。

15日、東京都立大付属高校の卒業式は、前夜から卒業式粉碎を叫ぶ生徒約30人が4階建ての新館を占拠したため中止となり、卒業証書は郵送。

18日、都立上野高校で卒業生150人余りが「卒業式を延期して討論会を開くべきだ」と主張、校庭で集会を開く分裂卒業式となる。

4月8日、大阪府立高津高校で全闘委生徒、7項目を学校に要求し、構内集会を行う。

9月18日、大阪府立清水谷高校で反日共系生徒がゲバ棒、ヘルメット姿で校内デモを繰り広げる。

10月28日、東京都立日比谷高校では高校側がロックアウトをする騒ぎになる。

中ソ両軍武力衝突 3月2日、早朝、中ソ東部国境を流れるウスリー川なかすの中州(珍宝島・ダマンスキー島)で、中ソ両国の国境守備隊が衝突し、双方に多数の死傷者。この衝突は中国軍約300人によるソ連軍約70人への奇襲攻撃で始まり、ソ連軍は二時間後に敗退、隊長を含む31人のソ連兵が戦死、14人負傷と発表。中国側はソ連軍が先に自国領に侵入と抗議。60年代に入ってからの中ソ関係の悪化のなかで、両国政府が武力衝突を公式に確認したのは今回が初めてで、15日に再び衝突、ソ連の装甲部隊の報復攻撃で中国精鋭部隊は甚大な損害を蒙る。

沖縄返還闘争 4月28日、社会党・共産党・総評が沖縄返還問題で初の統一中央大会を東京で開催、約13万人参加。反日共系各派は都内各所でゲリラ闘争を展開し、国電・新幹線が深夜まで止まる。

「新全国総合開発計画」決定 5月30日、情報化社会に対応し、狭い国土を有効に活用するために、全国を7つのブロックに分けて計画を推進する「工業基地」「食料基地」「レクリエーション基地」など、地域の実情に沿った産業開発を行う、地域の分業化を推進する、各地域を新幹線・高速道路・データ通信などで結ぶ「ネットワーク方式」を採用する、などが主な内容。また、大都市に中枢管理機能をもたせ、過密化する人口の分散や生活環境の保全も重要な柱で、開発の実現のために官民混合方式や民間開発業者の参加を求め、広域行政の検討も課題とされた。62年の「全国総合開発計画」が人口集中や過疎化を解消できず、経済優先の開発により公害の発生など、弊害をもたらしたために、その反省のうえに立案された。しかし、70年代に入って公害や環境問題が一層深刻化し、「石油ショック」を機に高度経済成長が止まり、「低成長時代」を迎えると、巨大プロジェクトは困難となり、「新全総」は結局挫折することになる。

新宿西口フォーク集會に機動隊出動 6月28日、新宿駅西口地下会場で「反戦フォーク集會」に集まった学生たちが機動隊と衝突、交番に投石するなどの騒ぎが起きた。集まったのは大学生を中心とする若者や労働者で、子供連れの主婦の姿もあった。集會は夕方、ベ兵連の青年たちがギターを奏でて反戦歌などを歌ううち、午後7時頃には7千人近くに膨れ上がった。7時45分、一人の青年が「新宿郵便局に、今朝区分機が強行搬入された。機動隊もいる。郵便局へ行こう」と叫ぶと、学生たちは掛け声と共に一斉に動きだし、約5千人が地上に出て、駅前で機動隊800人と衝突した。機動隊は広場内に進入し、派出所に投石する学生たちにガス銃を発射、64人を逮捕した。

「反戦フォーク集會」は2月頃から始まったが、学生がフォークソングを歌ったり、カンパを求めたりする行動を、警察は「違法行為」として規制を強めていた。以後、警視庁はこの「広場」を「通路」と書き換え、「道路交通法」を適用、立入禁止地区としたため集まりも消滅する。

8月3日、参議院本會議に上程された「大学の運営に関する臨時措置法案」が、議長発議により審議ゼロのまま抜き打ち裁決され、成立。8月7日、公布。

8月12日、北アイルランドで公民権平等を求める少数派カトリック教徒が、ロンドンデリーで警官隊と衝突。

8月、山田洋次原作・脚本（森崎東と共同）・監督、渥美清主演の「男はつらいよ」が全国の松竹系映画館で封切られ、後にシリーズ化され、83年公開の30作目で世界一の長寿企画となった。

9月1日、リビアで青年将校団、無血クーデターを決行、イドリース国王（79）の王政を打倒して革命政権を樹立。国名はリビア・アラブ共和国に変更され、13日に姿を現した革命評議會のカダフィ議長（28）が翌年1月に首相兼任となり、アラブ民族主義とイスラムの教義に基づく社会主義の建設を掲げ、独特の内政・外交政策を推進。

9月5日、日比谷野外音楽堂で全国全共闘連合の結成大会開催。

10月21日、社会党・共産党・総評共催の国際反戦デー統一行動が全国600カ所で行われる。反日共系各派は東京、大阪などでゲリラ戦を展開。赤軍派は「東京戦争」を叫びながら、手製爆弾を投げつける。1505人逮捕。

10月31日、文部省、高校生の政治活動禁止を通達。

11月1日、新潟で航空自衛隊の小西誠三曹が基地内外に反戦ビラを貼り、逮捕。

75年2月2日、無罪判決。

赤軍派大菩薩峠で検挙 11月5日、警視庁公安部は山梨県北部の大菩薩峠で、この月中旬の佐藤首相の訪米阻止を狙って武闘訓練中だった反日共系過激派・赤軍派メンバーを、凶器準備集合罪で現行犯逮捕。つかまったのは同派副委員長など指名手配中の5人と女子学生2人を含む53人。鉄パイプ爆弾17本、小刀43本、硫酸入り試験管15本など押収。同派は4月28日の沖縄デー以後、石と角材による闘争から爆弾闘争へと

戦術をエスカレート、都内でゲリラ活動を行っていた。午前2時、ふもとの塩山署^{えんざん}を出た警視庁公安部と全国9府県警の警察隊員300人は、午前6時、山荘「福ちゃん荘」に踏み込み、全員逮捕。赤軍派は3日昼すぎから、ワンダーフォーゲルと称して宿泊、山中で手製爆弾を投げるなどの武闘訓練を行っていた。

11月16日、全国で首相訪米抗議集会が開かれ、72万人参加。東京駅、蒲田駅などで多発ゲリラ。

11月21日、日米共同声明で「核抜き」「本土並み」の72年沖縄返還確認。

「パルコ」開店 11月23日、東京池袋に170の専門店を集めた大型ショッピングセンター「パルコ」登場。山口はるみによるミディとパンタロンのポスターは、ミニ全盛の若い世代に新鮮な印象を与える。ファッションを中心に新しいタイプの店舗として定着。2年後、渋谷へ進出。

12月17日、文部省、大学紛争白書を発表。紛争大学は124校。

《事物》クォーツ腕時計 コンドーム自動販売機 プッシュホーン

(流行語)断絶 オー・モーレツ! ニャロメ 造反有理 5月病 はっぱふみふみ
あっと驚くタメゴロー やったぜ、ベイベー エコノミックアニマル 欠陥車
告発 しこしこ 疎外 ちんたら ナンセンスデジタル フォークゲリラ
悪のり 金帰火来 チクロ 心情三派 情報化社会

(TV)「8時だヨ!全員集合」「コント55号・裏番組をブッ飛ばせ」「巨泉・前武のゲバゲバ90分」「サインはV」「水戸黄門」「ムーミン」「タイガーマスク」「柔道一直線」「ヤングおー!おー!」「鬼警部アイアンサイド」「宇宙大作戦」「プレイガール」「唄子・啓助のおもろい夫婦」「ベルトクイズQ&Q」「連想ゲーム」「紅白歌のベストテン」「サザエさん」「鬼平犯科帳」「天と地と」「安べエの海」「アタック 1」「プリズナー 6」

(CM)「クリープを入れないコーヒーなんて」「痛快まるかじり」明治チョコ「コント55号のレナウンシリーズ肌着」「愛のスカイライン」「ペプシがなければはじまらない」

(映画)「男はつらいよ」「私が棄てた女」「心中天網島」「少年」「橋のない川」「新宿泥棒日記」「人斬り」「新網走番外地・流入岬の決闘」「ベトナム」「風林火山」「栄光への5000キロ」「千夜一夜物語」「日本暗殺秘録」「かげろう」「処女ゲバゲバ」「現代やくざ・与太者の掟」「日本侠客伝・花と竜」「御用金」「キューバの恋人」「パルチザン前史」「怒りをうたえ」「沖縄列島」「真夜中のカーボーイ」「アポロンの地獄」「ワイルドバンチ」「ローズマリーの赤ちゃん」「if」「ジョンとメリー」「チップス先生さようなら」「夜霧の恋人たち」「泳ぐひと」「中国女」「ウィークエンド」「カラマーゾフの兄弟」「ジブシーの唄をきいた」「イエロー・サブマリン」「さよならコロンバス」「おかしな二人」

(コミック)「ゴルゴ13」「もーれつア太郎」「火の鳥・黎明編」 滝田ゆう「寺島町奇譚」 わたなべまさこ「ガラスの城」 真崎守「はみだし野郎の子守唄」

「ジロのいく道」 園山俊二「花の係長」 旭丘光志「ある惑星の悲劇」
政岡としや「悪たれ」 望月三起也「ワイルド7」

* 朝日ジャーナルに佐々木マキの難解マンガ連載

(歌)「港町ブルース」「新宿の女」「長崎は今日も雨だった」「池袋の夜」「君は心の妻だから」「時には母のない子のように」「白いブランコ」「昭和ブルース」「風」「今日でお別れ」「みんな夢の中」「ミヨちゃん」「いい湯だな」「坊や大きくならないで」「禁じられた恋」「夜明けのスカット」「どしゃぶりの雨の中で」「くれないホテル」「ある日突然」「フランシーヌの場合は」「恋の奴隷」「いいじゃないの幸せならば」「別れのサンバ」「真夜中のギター」「黒猫のタンゴ」「ひとり寝の子守唄」「人形の家」「夜と朝の間に」「夜が明けたら」「悲しみは駆け足でやってくる」「白い色は恋人の色」「雪が降る」「サマータイム」

(本)海音寺潮五郎「天と地と」 梅棹忠夫「知的生産の技術」 E・デボノ「水平思考の世界」 庄司薫「赤頭巾ちゃん気をつけて」 田久保英夫「深い河」 清岡卓行「アカシアの大連」 佐藤愛子「戦いすんで日が暮れて」 倉橋由美子「スミヤキストQの冒険」 椎名麟三「懲役人の告発」 保田与重郎「日本浪漫派の時代」 D・モリス(日高敏隆訳)「裸のサル」 高橋和己「わが解体」 大江健三郎「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」 李恢成「またふたたびの道」 吉行淳之介「暗室」 津島佑子「レクイエム」 辻邦生「背教者ユリアヌス」 武田泰淳「富士」 後藤明生「笑い地獄」 真継伸彦「無明」 渡辺眸「東大全共闘」 ドラッカー「断絶の時代」

1月野間宏、堀田善衛、野坂昭如ら東大全共闘支持声明 2月武田泰淳、芸術選奨辞退

(AMUSE) 1/3新宿中央公園赤テント公園で唐十郎ら逮捕 1月東京キッドブラザース「パニック・交響曲第8番は未完成だった」上演 3月俳優座「狂人なおもて往生をとぐ」上演 地下劇場、天井桟敷館オープン、「時代はサーカスの象にのって」上演 8/7反博に九大ファントム機の一部展示 12/5ミュージカル「ヘアー」(渋谷・東横劇場)上演

(スポーツ) 8/9第51回全国高校野球の決勝戦、松山商 - 三沢高が延長18回引き分け再試合、翌日松山商優勝。負けた三沢の太田幸司投手は「甲子園の星」第1号に 12/5チェコのザトベック、陸軍から追放

(LIFE) 2/10東京・八重洲地下街オープン 4/1全国33カ所でゼロ歳児保育開始 5/26東名高速道路全通 5/29警視庁のパトカーのサイレン「ウーウー」から「パフパフ」に 7/22文部省、初の肥満児全国調査発表 8月信販大手7社のクレジットカード利用者140万人(1年間で4.4倍) 10月交通違反点数制スタート 12/1東京都老人医療費無料化実施 12月服部セイコー、初のクォーツ腕時計発売 住友銀行、初の現金自動支払機設置

2005年2月27日記